

# 3つの閾値

## それらが私たちのトレーニングに及ぼす影響

fedupfred

**刺激知覚の閾値：**  
馬が恐ろしい対象を  
認知するフェーズ。

**嫌悪刺激の閾値：**  
馬が恐ろしい対象に対して  
不快感を抱き始めるフェーズ。

**恐怖反応／反応性の閾値：**  
馬が逃走・闘争・フリーズのいずれかの  
行動を起こそうとするフェーズ。



恐怖に対処するためのメソッドは数多く存在し、それぞれが異なる名称で紹介されています。

これらのメソッドは、トレーニングの過程における「**閾値**」に注目することで、整理することができます。閾値とは、馬が刺激に対して示す反応の強度を示す指標のことです。

**非強制的な手法**では、常に動物が「**閾値以下**」の状態でき学習できるよう配慮し、**安全で理想的かつ最も効果的な学習環境を整えます**。具体的には、**脱感作 (DS)** や **拮抗条件づけ (CC)** と呼ばれる手法が用いられます。

これらの手法では、中立または嫌悪刺激を馬にとって**好ましい刺激**と組み合わせます。ここでは、**望ましい行動そのものを、強化するわけではありません**。

脱感作 (DS) や拮抗条件づけ (CC) は、馬が「**恐ろしい対象**」への感情自体を変化させることに主眼を置きます。

そのため、**馬が恐ろしい対象を認識した時点で、行動とは無関係に好ましい刺激を与えます**。つまり、馬がまだ怖がっている段階では、その対象に近づくよう誘導したり、その行動を強化したりはしません。

そして多くの場合、トレーニングの最終段階で、**正の強化 (R+)** を導入もしくは併用することにより、学習プロセスを完成させることがよく行われます。

恐怖反応に対処するための**R- (負の強化) の手法**は、驚くほど幅広いバリエーションが存在します。

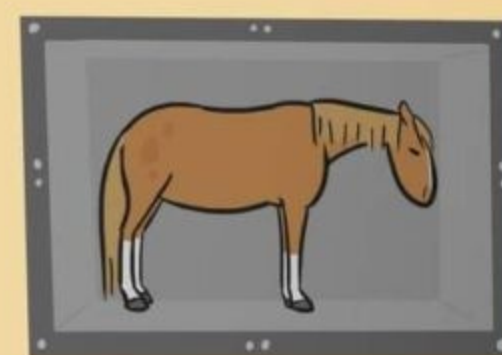
これらは一般的に、「**アプローチ&リトリート**」として知られています。この手法では、人が馬に圧力をかけ、馬が不快感を示し始める閾値付近に達した段階で、正しい行動を確認できれば、圧力を解放し、リトリート (後退) を行います。

一方で閾値を超えると、馬は**宥和行動**や**転位行動**を示すことが多くなります。ところが、こうした行動をすると、人は馬の行動を制止したり、罰を与えることも少なくありません。さらには、これらの行動を好ましいサインと誤解されてしまうケースもあるのです。

「唇を舐める行為」は、学習が進んでいるサインと解釈されがちですが、実際には**ストレスを処理し、安堵しているだけの可能性**があります。馬は苦手な刺激に対して、パニックを起こす一歩手前 (閾値付近) のとき、**望ましい行動を示すと、逃避/回避が可能になると学習します**。

結果、見かけ上は身体的な反応を抑えられる場合がありますが、**恐怖や嫌悪感が残っています**。そのため、複数のストレスが重なると、危険な「**スティミュラス・スタッキング**」を引き起こす恐れがあります。

**フラッディング (洪水法)**



**フラッディング (洪水法)**とは、馬を**逃げ場のない状況**に置き、限界をはるかに超えるほどの不快感を与える手法を指します。

この手法を用いると、馬は**学習性無力感**または**強直性不動状態**のどちらかに陥ります。一見**落ち着いているように**見えても、実際には恐怖や反応を示す段階を通り越し、完全に心を閉ざしてしまっているのです。

トレーニングの観点からは一見、馬がおとなしく扱いやすくなるため、とても有効なように思えます。しかしその一方で、馬に深刻な**悪影響**をもたらす恐れがあります。たとえば、**突然元の状態に戻ったり、極端に激しい反応性を示すことがあります**。